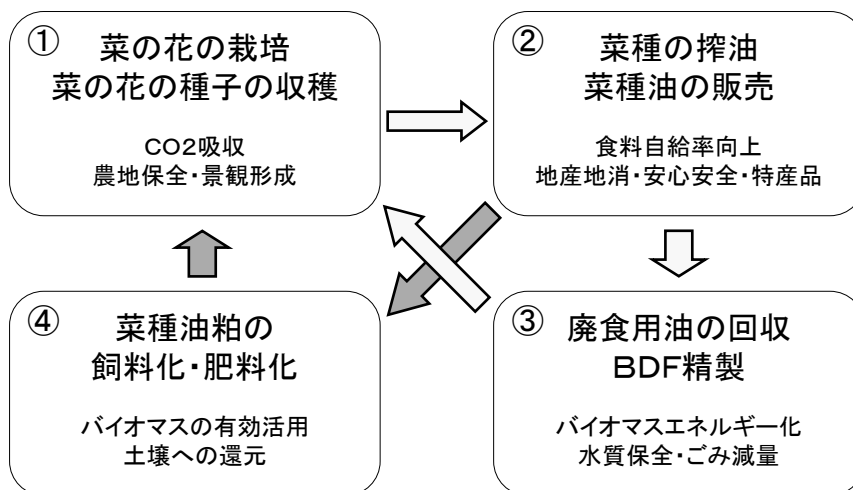


洲本市での 菜の花エコプロジェクトの 取組について

洲本市役所 農政課

菜の花エコプロジェクトとは



菜の花を核とした地域資源を循環させることにより
化石燃料に依存しない環境に優しい社会の形成を目指す取組 **1**

① 菜の花の栽培・収穫の経緯と実績

平成 7年度 景観用菜の花の栽培開始
 菜の花の種子の無償配布を開始
 平成13年度 油用品種の菜の花の栽培開始
 平成18年度 菜種収穫用コンバインの導入
 平成19年度 菜の花栽培農家に対し助成金支給を開始
 平成19年度 最大20,000円／10a
 平成20年度 最大18,000円／10a

菜の花の栽培・収穫実績

播種年度		13	14	15	16	17	18	19	20
栽培面積 (ha)	景観用品種	4.0	5.0	5.0	7.0	5.0	6.7	4.0	4.4
	油用品種	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	4.1	13.9	23.1
収穫面積 (ha)		0.4	0.8	1.1	0.0	1.3	3.4	9.2	
収穫量 (kg)		498	792	550	0	1,137	4,074	9,023	2

① 菜の花の栽培・収穫に係る課題

- 採算性 : 野菜並みの収益は見込めない
地域によって菜種の状態で売れない
- 生産性 : 収量150~200kg／10aを目指す
栽培面積の維持・拡大
- 連作障害 : 同一圃場での連続栽培に難あり
- 輪作体系 : 菜種収穫期が田植え期と重複するため
水稲作との輪作が困難

3

② 菜種の搾油と菜種油販売の経緯と実績

平成14年度 菜種油の生産、販売開始
製造は県外業者へ委託
製造コスト910円/kg

平成19年度 菜種搾油施設を建設
総事業費40,000千円、78%は国県の補助金

平成20年度 菜種油の地域内一貫生産を開始
製造コスト590円/kg

菜種油の生産・販売実績

菜の花播種年度	13	14	15	16	17	18	19	20
菜種収穫量(kg)	498	792	550	0	1,137	4,074	9,023	
搾油に用いた量(kg)	475	775	550	0	1,100	3,312		
生産・販売量(kg)	161	257	176	0	312	806		

4

② 菜種の搾油と菜種油販売に係る課題

- 販路確保 : 地元+都市部住民をターゲットに
地産地消、食の安全、ブランド化
加工食品への展開(ドレッシングなど)
- 原料確保 : 農家の栽培意欲が維持できる利益還元を
- 生産性 : 搾油率30%を目標に技術向上
製造コストの削減

5

③ 廃食用油の回収とBDF精製の経緯と実績

平成14年度 BDF精製プラントを建設
 総事業費14,000千円、国県の補助金を活用
 平成15年度 廃食用油の回収とBDF精製を開始
 町内会単位で拠点回収(市内全域)
 BDF製造コスト127円/L
 BDFは全て市の公用車にB100で使用

廃食用油回収及びBDF精製実績

(単位：L)

	H15	H16	H17	H18	H19
廃食用油回収量	2,100	3,600	4,810	6,239	11,729
廃食用油処理量	1,150	3,500	4,200	4,700	9,000
BDF精製量	1,090	3,095	3,990	4,465	8,550

6

③ 廃食用油の回収とBDF精製に係る課題

- 副産物(グリセリン、洗浄排水)の処理
- 新型ディーゼルエンジンへの対応
- 品質管理
- 課税(軽油引取税)の問題



7

④ 菜種油粕の飼料化・肥料化について

菜種を搾油すると、25～30%は油に
残りの70%ほどは油かすに

→ 飼料または肥料として有効活用

平成20年度は約8tの菜種油粕を生産予定
肥料として全量販売の見込み(30～50円/kg)



N 6.0%
P 2.5%
K 1.0%

8

今後の展開について(現在進行中)

- 菜の花エコプロジェクトを核とした地域活性化
新たな特産品、美しい農村風景、環境への配慮
→ 多くの人が訪れる魅力ある街として活性化
- 新たな特産品の開発
菜種油として販売するだけでなく
ドレッシングやお菓子などの加工品
菜種油粕を給与した家畜のブランド化
- 農地と施設の有効活用
菜の花と水稻、ヒマワリ、ソバ、飼料作物
などとの輪作により、農地と施設を高度利用
- 環境教育の推進

9